

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873000053		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館 いなり		
所在地	茨城県かすみがうら市下稻吉1668-6		
自己評価作成日	2021年9月30日	評価結果市町村受理日	2022年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所したからといって今まで楽しみとしていたことややりがい、役割などがなくならないように、一人ひとりの個性を活かしてその人にあったケアやレクリエーション等を実践し、日々の生活にメリハリをつけ結果的に自立支援や生活の室の向上に繋がることを目標に支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍にあり、現在は外出を控え、法人全体のイベントも中止となっているが、事業所内のレクリエーション活動に力を入れている。利用者が日常的に生活リハに取り組めるよう、毎日20分の歩行訓練や読書が趣味の利用者の為に図書館で本を借りてきたり、大好きな利用者には職員の飼犬と触れ合う時間を作り、花の好きな利用者と一緒に花の手入れをするなどの個別支援に力を入れている。また、料理が得意な利用者には食事の下準備をお願いする等、利用者それぞれの役割を担い、生きがいを持てるような支援にも取り組んでいる。1ユニットの利点として、利用者と職員の関係は深く、お互いの顔を見ただけでその日の気持ちが分かるようになったとの事。感染予防対策は本社のWEB研修を基に必要物品の整備・防護服の着脱・ゾーニング方法等のシミュレーションを実施した。***新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念・いなり館としてのユニット理念をもとに職員一人一人がこれを念頭に置いて業務にあたっている。	法人の10則と事業所独自の理念を大切にケアの提供に務めている。利用者一人一人の思いに寄り添い、全職員で共有している。勤続年数が長い職員が多く、利用者、職員共に笑顔が生まれる生活支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の散歩時に、近所の方に挨拶をし、交流を図っているが、コロナ禍で、散歩ができず駐車場の水やりなどの時に挨拶をおこなっている。	現在、コロナ禍で地域交流は思うように出来ていないが、近隣住民と会ったときは挨拶を交わしている。自治会にはAED設置施設であることを伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、行えていないが、以前は養成講座から実習生を受け入れ、実習が終了した後も気軽に来館して頂けるような環境作りを心がけている。地域の理髪店を利用する際にも、お店の方に理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様やご家族様を交えて2か月に一回のペースで開催し、ご意見など積極的に施設の運営に取り入れています。現在は、コロナ禍の為、資料提出時に意見を頂いている。	現在は2ヶ月毎に書面での報告(利用状況・行事報告・予定等)となっているので、書面提出時に行政に意見を聞いている。書面報告であることから委員や家族に報告は行っていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所が近い折に触れ訪問し施設の状況や利用者様の状況をお伝えし、介護相談員の方とも情報交換を行うことで施設の運営に生かしている。	なるべく市役所に出向き、担当課と密に連絡をとり合っている。生活保護受給の利用者がおり、ケースワーカーとは電話で連絡を取り合っている。行政主催の認知症の映画鑑賞会をWEBで観た。小・中学生の職場体験受け入れや市主催のイベントは中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、マニュアルを整備し新人の職員を教育する際は勿論のこと身体拘束に理解を深めた上でケアを実施している。また、身体拘束委員会を設置し3か月に1回身体拘束について理解を深める取組をしている。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、拘束となる行為、弊害について周知している。身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月毎に事例をあげて勉強会を開催している。委員会の資料を配布し、年2回の研修会を開催、受講後は確認テストを実施している。玄関の施錠はしていないが、センサーを設置し、人の出入りの確認は取っている。今まで拘束をした例はないが、やむを得ず拘束となる場合の書類は整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース記録・申し送り・業務日誌などを活用し一人一人の細やかな対応を心がけ、資料や社内研修を通して虐待とは何かを話し合ったりし虐待防止に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所・病院・地域包括などから情報を収集し理解に努めています。また、以前制度を利用していた利用者様がいらっしゃいましたので参考にさせていただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には、十分な時間をお取りし事業所のケアや取組についても説明している。また、ご家族様の要望をお聞きし理解・納得して頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に定期的にお手紙を出し、利用者様の状況報告している。また、来館時には積極的にお話をお聞きし話しやすい雰囲気作りを心がけている。問題が起きた際には、早期解決が出来るよう迅速に対応している。	利用者からは日々の会話の中から意見等を聞き、刺身が食べたいという希望に鮪を丼提供するなどし反映させている。家族からは意見箱や面会時に直接意見を聞く。コロナ禍でWEB面会だったが、先月からは予約制で15分間の対面での面会を再開した。毎月、担当職員が写真付きで利用者の状況を家族に伝えており、礼状が届くことがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスやミーティングを聞くことで職員の要望や意見を聞き取り、職員がストレスや不満を抱えることなく働いていける環境作りに努めている。	職員が何でも話しやすい環境が一番だと考え、管理者は常に意見や要望に耳を傾けている。職員からは管理者やケアマネには何でも話せる環境なので、ストレスや不満はなく、落ち着いてケアにあたる事が出来るとの話があった。内外研修に参加することができ、受講費は会社が負担する。WEB研修を活用し、職員のレベルアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日常的に職員とのコミュニケーションを図り意見など聞くようにし、やりがいや向上心を持って働けるようにサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月に1回、社内研修を実施している。コロナ禍の為、Web研修を取り入れている。また、外部研修にも受講できるように、費用は、会社負担にて受講できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ禍の為、参加を控えております。Web上のイベントなどに参加をしています。また、市役所にいった際に、他事業所のかたと会い、情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前相談により、利用者様の生活面などの把握に努め、職員は入居と同時に資料を生かした関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は勿論のこと、入居にも本人様・ご家族様の希望などをゆっくりと話して頂けるようにし一日も早く利用者様の事が理解できるように努めている。入居後もこまめに連絡を取り、安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方らしく生活が出来るように、職員がコミュニケーションをとり、臨機応変に対応することでよりその方に合った支援が行えるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、洗濯物や食後の片づけ、ホール内の掃除など無理のない程度に行って頂いたりと支えてくださっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節ごとの行事に、お便り等を通じてご家族様へ連絡しお誘いしていましたが、コロナ禍の為、参加を控えて頂いております。お手紙で報告や直接電話・Web電話で本人様と話して頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中学校の運動会など地域のイベントへの参加や古くからの友人など来館し交流をしていましたが、コロナ禍の為、Web上での参加や外部との接触を控えながらドライブなどを行っている。	馴染みの友人や知人、家族等の大切な人との関係継続に努め、電話・手紙・年賀状等で連絡を取り合っている。先月からは予約制で15分間の対面での面会を再開している。馴染みの場所にはドライブを兼ねてでかけ、車窓からの景色を楽しんでいる。利用者同士が認め合い、支え合えるいい関係ができています。系列の事業所に移動した利用者ともイベントの時に交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個人の個性や相性を考慮し、職員が間に入り、ともに認め合い支え合えるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他館に移動された方でも、各行事参加を通じて関係を築いている。契約終了をした後でも、いつでも連絡が取り合える状態になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いや希望を尊重した生活をして頂けるように努めている。コミュニケーションが困難な方にも、生活歴や家族様からのお話を聞き、その方らしい生活が送れるように支援している。	利用者が得意な家事や趣味の継続等から、生きがいとやりがいに繋げている。一日の流れは概ね決まっているが、あくまでも利用者本位の生活リズムを優先している。個別支援として、読書が趣味の利用者に図書館で本を借りてきたり、犬好きな利用者の為に職員の愛犬を連れてきて触れ合う時間を設けている。毎日20分の歩行訓練を実施する利用者がある。自己表現が困難な利用者はいないが、本人の話すことが本心かどうか職員同士で検討しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ皆が利用者様一人一人の生活習慣に沿った支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や業務日誌・タブレットを活用し業務に入る前にそれらを確認している。また、朝礼・夕礼時に状況報告を行い、状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様の意見を取り入れ、より良い生活が送れるように介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンス時に日々の状況を上げ、今後の課題として明らかにしている。	利用者・家族から要望を聞き、カンファレンスで利用者のニーズとケアのあり方について話し合い、プランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。書面で利用者の状況説明を行っているが、文面にケアプラン作成の参考にする旨の記載がないので、今後追記予定。毎月のケアカンファレンスと6ヶ月毎のモニタリングを実施して評価に繋げ、変化が見られた場合は現状に即したプランを作成している。プラン・ケース記録・介護支援経過は連動している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全スタッフが情報共有できるように、日中・夜間の様子を記録している。必要な点に関しては、申し送りや業務日誌にも記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム・有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホームがあり利用者様の身体の状態に応じて利用して頂く施設を提案させて頂く。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員が定期的に来館し、助言やアドバイスをいただいている。また、近隣の中学校の職場体験やボランティア活動の受け入れも行っている。コロナ禍の為、来館できていないが広報誌などを利用して楽しく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず、利用者様や家族様の希望を確認した上で、その時々状態に合わせた医療機関を受診している。	協力医療機関から精神科・外科・内科・歯科・眼科往診があり、体調管理に努めている。特変時や処方箋が変わった場合は家族に連絡し、記録に残している。かかりつけ医受診は家族と病院で合流し、お互いに状態を把握している。合流時は今後の方針や様々な話が聞ける貴重な時間ともなっている。前回の評価を受け、家族連絡欄への記入、オレンジ色にマーカーでされた。またケース記録に残し、職員に共有する体制も整えられていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診時に相談を行っている。協力医療機関とはいつでも連絡、相談が行える体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が安心してできるようにこまめな面会を行い担当医・看護師に状態の確認を行っていたが、コロナ禍の為電話での確認。早期退院が出来るように相談を行い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から現在に至るまで、その都度ご家族様との話し合いの機会を持っている。重度化、状況変化が見られたら医師、家族様と相談し最善の方法が得られるよう職員全体で話し合い取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。基本的には看取りは行わない。重度化前に医師から説明があり、相談の上、利用者にとって最善の方向になるよう話し合い、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的なことは、入社時に教育を行い、それ以外にも救命救急の講習を受けて備えている。また、AEDの講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した避難訓練を年に2回実施している。内の1回は消防署の立会にて行い、消火器講習も行っている。また、避難訓練を行う際、近隣へ訓練の報告をし、見学、参加の受け入れを行う。	消防署指導(現在自粛)と夜間想定・緊急通報システム・消火器使用・避難経路確認・利用者行動把握等の自主訓練を実施。利用者が安全に避難できる方法を職員は身につけている。居室のドアを閉める、避難済みと確認している。風水害マニュアル・交通事故対応マニュアルは作成済み。非常口に手すりについては、段差はある。訓練前に近隣に見学・参加を募るお知らせをしているが参加者はいない。	夜間帯の不安軽減のため、民生委員や区長と合同訓練を実施し、協力依頼をすることが望ましい。広域避難所は周知しているが、地域住民と行動を共にするのは難しいと思われるので、行政に、事業所用に一部屋提供のお願いと、福祉避難場所の確認を職員・家族に周知することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活スタイルに合わせて、状況によっては立ち入りすぎないように配慮を行っている。	写真・居室の名前掲示に承諾を得られない利用者への配慮がされている。書類関係は事務所に保管。情報開示に向けた同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。呼び名は利用者の希望を聞き、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話を基に信頼関係を築くとともに、意思の尊重と決定権を利用様に委ねている。決定が難しい場合は、助言等を用いて自己決定ができるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活に合わせている。四季の行事や習わしなども取り入れ、その方の希望を尊重している。また、個別レクなど行い、利用者様の一人一人の要望に柔軟に応えられるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近くの洋品店へ買い物と一緒に出掛けた。理容室に出掛けている。(移動美容室も活用している)日々のお着換えの際にもご自身で服を選んで頂き、オシャレを楽しんで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を取り入れたり、季節の旬な食材を取り入れている。手伝って頂ける方には、準備や片付けをお願いしている。また、外食レクなども行っている。	利用者に希望を聞き、季節の食材を取り入れたメニューを職員が立てている。コロナ禍前は一緒に買い出しに出かけていたが、現在は準備や片付けをお願いしている。職員は少し席を離しているが、利用者の様子を見ながら食事をとっている。食事は利用者の状態に応じた形態で提供している。出前・テイクアウト・誕生会や巾着・ゼリー・たこ焼き等のおやつ作りで食べる楽しみに繋げている。外食レクは自粛している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量をチェック表に記入し摂取状態を把握している。栄養バランスが偏らないよう、調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診で定期的に診て頂き、指導を受けている。それを基に毎食後の口腔ケアの支援に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを可能な限り把握し支援している。トイレの場所がわかるように声掛け誘導を行っている。トイレ後に少し運動などを取り入れ、運動・排泄と習慣化を心がけている。	排泄パターン・チェック表・表情・様子から声掛け誘導を行いトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘予防として繊維質食材・海藻類・毎日のラジオ体操・散歩等で自然排便に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を提供したり、寒天や春雨など取り入れることなるべく薬に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じ、好きな時間に入浴して頂ける。季節によってゆず風呂や入浴剤を使いながら日々の入浴を楽しんで頂いている。	利用者の希望に応じた入浴支援ではあるが、基本的には週3回である。季節のゆず湯・しょうぶ湯や入浴剤を使用し気持ちよく入ってもらおう。職員とワンツーマンの時間となり話が弾む。皮膚感染予防を実施している。巻き爪は外科往診時に処置してもらっている。着替えの準備はできる方は自分で、その他は職員と一緒に揃えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床に関しては、一人ひとりの習慣に合わせて対応している。居室の空調管理を徹底し心地よく入眠できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握し、理解している。薬に関して何か不明な点があれば、医師や薬剤師に質問できる体制が整っている。また、服薬介助に関して、嚥下機能が低下している人に関しては、トロミ等使用してむせ込まないように支援したりなどその人によって服薬方法を工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の残存機能を活かして頂くため、家事等をお手伝いして頂くことで自然とやりがいや役割が持てるように支援している。また、レクリエーションや季節の行事なども多く取入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やドライブ等、外出できる機会を計画立てて作り季節を感じて頂けるように支援している。また、利用者様の希望に合わせた外出も行っていたが、現在、コロナ禍の為、玄関先や駐車場の散歩をしている。	現在はドライブを兼ねて車で出かけ、車窓から景色を眺め季節の移ろいを感じている。日ごろは玄関先や駐車場の散歩を行っている。以前のように日常的な散歩・ドライブ・なじみの店・外食等に出かけられる日を待ち望んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。一緒に買い物に出かけ、好きなものを購入できる環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や要望がある際には、声をかけて頂、いつでも電話ができるように支援して。手紙に関しても童謡の対応を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは季節に応じた掲示物を取り入れ楽しみながら生活できる空間づくりを心がけている。居室内には、使い慣れ親しんだ物を持ち込み使用して頂いている。	見やすい手作りの日替わりカレンダーや時計で見当識に配慮している。自分の好みの場所のソファや和室、テレビ前で時代劇や邦画のDVDを見たり、好きな本を読んでいる利用者の姿がある。季節に合わせた飾り(紅葉)やイベント(ハロウィン・納涼祭)の写真を掲示している。トイレ・お風呂場の表示はわかりやすい。毎日のメニュー消すのが仕事になっている利用者がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファや和室等を配置し好みの場所で一人ひとりが過ごして頂けるようにしている。また、時代劇・邦画のDVDや本をご用意し飽きない工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇など持ち込んで頂き、ご自身の生活に合わせ、洋室にも和室にもできるようにしている。また、ご家族様来館時に季節ごとの馴染みの物をお持ちいただいたりしている。	居室入り口に名前と写真(承諾を頂いた方のみ)を掲示している。タンス・テーブル・椅子・テレビ・仏壇等を安全面に配慮し設置している。家族の写真・ぬいぐるみ・アルバム・色紙・写真等を飾り、落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の生活レベルに合わせた安全な環境作りをしている。居室や共用スペース、トイレなどに手すりを設置したり、その方に合わせた階段やスロープの使用を選択して頂いた上で自立支援に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームいっしん館いなり

目標達成計画

作成年月日 : 2022年1月31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時の対応に不安がある。夜間帯は一人体制の為特に不安である。	・福祉避難場所の確保。 ・夜間想定災害時の訓練の実施	・区長・民生委員・近隣住民に声をかけ、日程調整し参加していただき、夜間想定避難訓練を行う。 ・社内施設で共有し、協力体制をとり、福祉避難場所の確保する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。